

1. 参考文献

- ・日本銀行 調査統計局 経済統計課、「入門資金循環 統計の利用法と日本の金融構造」東洋経済新報社、2001年
- ・日本銀行調査統計局、「資金循環統計の解説」2002年（<http://www.boj.or.jp/stat/exp/data/exsj01.pdf>）

2. 資金循環とは？

- ・日本銀行が四半期毎に作成：計数をホームページに掲載
- ・経済部門（非金融法人企業、家計、政府、海外など）ごとの合計、複式簿記の考え方
- ・ストック表（期末残高を示したもの）とフロー表（期間中の変動を示したもの）の2種類
- ・SNA統計でも重要な役割を果たしている

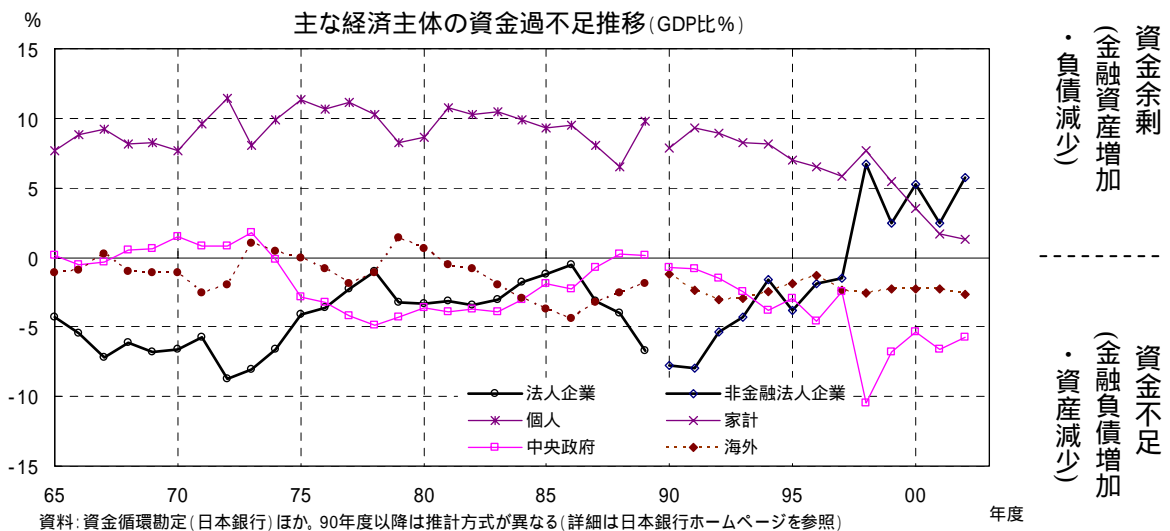
3. ストック（金融資産負債残高表）の特徴

- ・誰が資金の借り手で、誰が貸し手か？（金融資産の全部門計 = 金融負債の全部門計）
 部門の事例：金融機関、**非金融法人企業**、一般**政府**、**家計**、対家計民間非営利団体、**海外**

2003年末資産	2,949兆円	692兆円	442兆円	1,410兆円	47兆円	215兆円
同負債	2,936兆円	1,202兆円	815兆円	385兆円	21兆円	394兆円
- ・各経済主体が保有している金融資産のタイプも分かる
 例：家計の金融資産 1,410兆円（2003年12月末<速報>）。うち現金・預金 788兆円、保険準備金 250兆円、年金準備金 145兆円、株式・出資金 104兆円、株式以外の証券 68兆円

4. フロー表（金融取引表）の特徴

- ・各経済主体の資金調達（負債の増加）と資金運用（資産の増加）の差額が「資金過不足」
- ・各部門の資金過不足は、経済全体では必ずゼロになる
- ・経済主体別の資金過不足の推移は、時代の要請を反映している



5. 日本の金融システムの特徴

- ・間接金融が中心（資金の貸し手の借り手の間に銀行などが入る）
- ・金融機関のバランスシートからみて不良債権とは？

以上